

平成四年九月二十七日

郷土研究資料

第百九十四回

史跡めぐり

(白岡地区)

篠津

白岡の野與党諸氏の拠点

白岡

小久喜

越谷市郷土研究会

理事 山崎善司

第百九十四回 史跡めぐり案内 (白岡町地区)

とき 平成4年 9月27日 (日)

集合 越谷駅東口前 午前8時20分 8時41分発 伊勢崎行 準急

行先 白岡町 篠津・白岡・小久喜地区

コース 越谷駅 ー 久喜駅 ー 乗換 ー JR白岡駅下車 ー タクシー ー 篠津青雲寺 ー

篠津久伊豆神社 ー 徒歩 ー 白岡興善寺 ー 別当寺正福院 ー 白岡八幡宮 ー 昼食

小久喜久伊豆神社 ー 寿楽院 ー 鬼久保八幡神社 ー 鬼久保家 ー ー ー 白岡駅

久喜駅 ー 乗換 ー 東武線越谷駅 解 散

案内人 山崎 善 司 理事

会費 2,500円也、 但し、交通費(タクシー代含む)・資料代・保険料他。

その他 昼食は、各自弁・食堂にて

申込先 葉書に住所・氏名・性別・電話番号を明記の上、下記へ23日迄に申込み下さい。

越谷市宮本町 3-117-18
谷岡隆夫方 越谷市郷土研究会
〒343 862-7527

白岡町 南埼玉郡

白岡町は、南埼玉郡の内北部に位置し、面積24・51 Km²、旧利根川の河床跡(旧日川)と柴山沼跡と元荒川の左岸の台地を含む地域の農村地帯であった。

白岡町は、昭和29年に篠津・日勝の2村と大山村の大半が合併して白岡町となり、同30年蓮田市の一部を編入して、現在の町域となる。

近年急速に近代化の道を歩み始めた地域で、今、市制を施行する準備に町を挙げて取り組み、新生に燃えている町である。

町の中央に東北本線が走り、白岡駅・近年新白岡駅が出来て住宅地化が拡大され、新興住宅地と成りつつあり、又町域を貫通して東北新幹線が走り、東北縦幹道路が出来て、交通の要路となり、立地的に重要性が出てきた為、見直されつつある町でもある。

白岡町は、岡泉・実ヶ谷・瓜田ヶ谷・千駄野・小久喜・上野田・下野田・篠津・野牛・高岩・寺塚・白岡・柴山・荒井新田・大山等の地域に別れる。

白岡八幡宮は、八幡太郎義家が、奥州へ向かう途中、之の神社に戦勝を祈願した、野與党の信仰が厚かった。

町内下野田の旧日光御成街道に一里塚があり、県の史跡に指定されている。

白岡町に、播扱した野與党諸氏は、前期野與党に属する野與氏は、野與党発祥の地と云はれる、篠津・野牛に、鬼窪は、白岡八幡神社付近に、又、後期野與党に属する、南鬼窪氏は小久喜に、佐那賀谷氏は、実ヶ谷に夫々居館を構えて居たと思はれる。

野與氏

白岡町に播扱した、野與氏が「何処に入居したか」となると、判然としないが、今では町内の篠津並びに、野牛の久伊豆神社付近と云う事になっている。

野與胤宗が何故、篠津・野牛に最初の拠点を構えたのだろうか、と云う事となると、これ又、白岡町史や埼玉県史を紐解いて見ても、何の手係も無い始末である。

白岡町史には、以上の如くであるが、此れを歴史解明の為には、解ら無い成りに少しく推理して見る必要があるので無かるうか。

現在、野與と云う地名は見当ら無いが、篠津より野牛に向う道を今も『のよのみち』と云い、又、『のよの家』と云はれる家も残るので、野與の地は、現在の野牛で在ると推測出来る。



野牛久伊豆神社

野與氏の名は、「千葉大系図」「武蔵七党系図の野與党系図」に出てくる。

平高望王の子国香の弟。一良文は、村岡五郎を称し、又坂東諸平氏の祖と云はれる。

その子忠頼は陸奥・上総・下総・常陸介を兼、平将門の乱の功により、武蔵国に勢力を張る。

その子上総介平忠常が武蔵押領使となり、武蔵国に地盤を張る。

又、平忠常の子上総権介常将は、坂東八平氏の一つ、千葉宗家の千葉氏初代を称して下総国を拠点とする。

千葉大系図では常将の弟、一武蔵四郎胤宗は、武蔵国騎西郡野與に入部して野與氏を称し、野與党の祖と云われ、騎西郡一帯を支配し子孫は騎西郡の各地の開発者となり播擲する事と成る。

篠津村

白岡町篠津

忠常が武蔵押領使として、武蔵国に入部した理由は、平将門の天慶乱の時、平将門に味方した氷川神社系は、破れて後退し領地は押領された、其の内、騎西郡に入部したのが武蔵四郎胤宗である。

騎西町は、私市（キサイ）党の本拠地であったが、入部当時は騎西町から、中心が篠津村の方に若かして、移動して居たかと思はれる。

私市（キサイ）党は、又の名を私（シノ）党とも云は

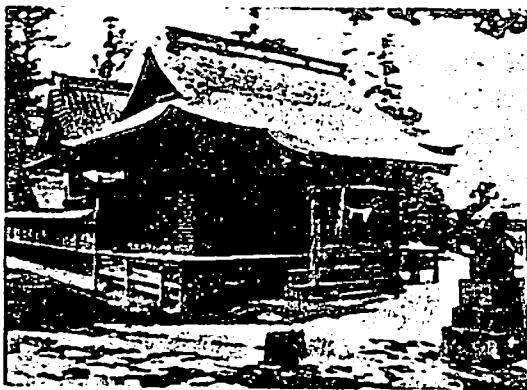
れて居た事から見て、入部当時は、篠津村の方が中心で在ったとの推理が成り立つ。

武蔵四郎胤宗が最初に入部の拠点として、篠津村を選んだ理由は、当時篠津は、私（シノ）党の本拠地で在ったので、篠津を押えるのが本筋であったと推測出来る。

1、篠津・野牛の地形は、旧利根川が野牛・篠津を取巻く様に曲流し、篠津は、船着き場として最適地で在った事が、地名より窺える。

2、私（シノ）党の拠した地で、船着場のある地点と云う意味で、私（シノ）の津＝篠津、と転化したのではなからうか。

3、私市（キサイ）党又の名を、私（シノ）党と云事から考察して、私（シノ）党の本拠地、篠津を押える事が必要であったと首肯出来る。



篠津久伊豆神社

白岡村

南埼玉郡白岡町白岡

白岡村は、JR東北本線白岡駅の周辺附近で、現在白岡町の中心地で、茶屋耕地・東耕地・山耕地・新田耕地の小名に別れ、白岡八幡社・別当正福院・興善寺・本覚院・光照院等がある。

白岡町は、嘗ては、白岡・篠津村・日勝村・大山村・蓮田市の一部に別れて居たが、昭和二十九年・三十年に合併編入されて、現在の白岡町域となる。

野與四郎胤宗が、入部したのは、篠津村で有ったが、其の一族が、野與・道智・多名・高柳・鬼窪・萱間・大蔵に分派し、前期野與党の時代には、之等の地名を名字に冠して播擧し、其の内、白岡村に拠したのは、前期鬼窪（北鬼窪）氏である。

白岡町を取巻く地域は鬼窪郷と云い、実ヶ谷・新宿・城・小久喜・白岡・黒浜・江ヶ崎等が其れに当り、後期野與党の時代には（南鬼窪氏）、之等の名字を冠した氏族が分派して活躍している。

鬼窪氏（前期野與党）

鬼窪氏は、前期野與党に属す鬼窪氏と、後期野與党に属す南鬼窪氏の二流がある。

註、1、白岡町史では、前期を北鬼窪と云、後期を南鬼窪と云い、區別している。

2、後期野與党は、龍大夫行長よりの分派を云い、行長は千葉常永の十子で、野與の党主恒永が奥州の役に戦死した為に、野與党の建直しのために派遣されたと考えられる。（千葉大系図によると）

千葉大系図
後期野與党 龍大夫行長 南鬼窪・白岡・黒浜・江ヶ崎・佐那賀谷に分派している。

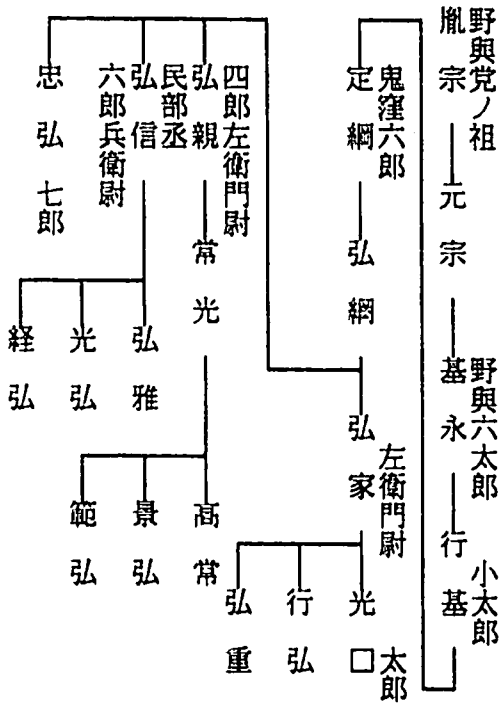
白岡町の東側が旧利根川の河道（旧日川ニツカワ）、西側が元荒川が流れて狹まる台地に在り、南に会野谷の地名が残り、「船着き場」とも呼ばれている地で、中世武將の館城に最適な地形が備はった地域である。

註、白岡町史に見る、鬼窪氏の拠点としては、

- 1、「元荒川左岸の台地上に位置し、西側より入る谷の北側の地、白岡字新田」を比定している。
- 2、「此の地は、『船着き場』と呼ぶばれ、深い掘が在った処、今道路と住宅地となり、痕跡を失う」（鬼窪氏の一つの拠点で河岸跡？）
- 3、「当町篠津の久伊豆神社を中心とする地域である」。（野與氏の拠点）

鬼窪氏の拠点としては、興善寺や正福院や白岡八幡宮の周辺から、板碑の所在が多数確認出来るので、この附近が、前期野與党に属する鬼窪氏の拠点として、推定するのが自然ではあるまいか。

然し乍、鬼窪氏の分派は、十家に及び、其の各々の拠点を知る事は困難である。



鬼窪氏系譜 野與党系図 (略)



白岡興善寺



興善寺の板碑

新編武蔵風土記稿 卷之二百八 葛蒲領

白岡村

白岡村は、私市庄と唱ふ。当村郷名は伝へざれど村内八幡社享徳五年の鰐口に、鬼窪八幡とあり。

又高麗郡新堀村聖天院に懸たる、応仁二年の鰐口に、久伊豆社御宝鰐口、願主衛門五郎、武州騎西郡鬼窪郷佐那賀谷村と載す。

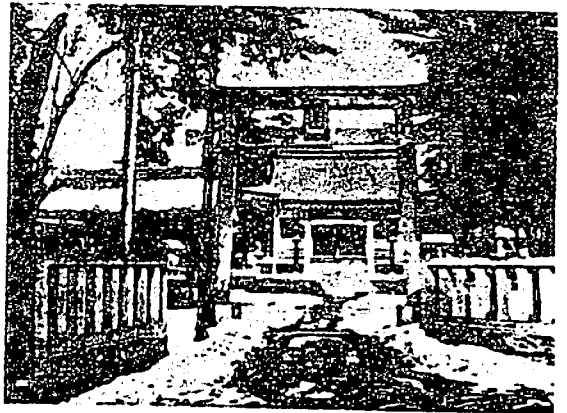
此の佐那賀谷は、今も実ヶ谷と書きて近村なり、然れば此の辺総て古は鬼窪郷と言ひしならん、今隣村小久喜に鬼窪姓の人あり、又白岡の名も古き事にして云々。

小名 茶屋耕地・東耕地・山耕地・新田耕地

八幡社 村の鎮守なり、正八幡若宮・八幡姫宮・八幡の三座請せり、社伝に云、当社は建久六年、右大将頼朝の命によりて、鬼窪某奉行して造立し、此の辺にて百余貫の社領を寄付有しが、永享年中当郡新堀の城主、佐々木某社領を没収し篠津・白岡両村の内にて、纒に十二貫文の地を寄附せしが、是も戦争の頃次第に衰へ、何時しか失せりと云。

按に鬼窪氏は、此辺に由緒有る人なれば、当社を草創せしは、さも有らん。

又今も社頭に享徳年中鰯口あれば、かたがた旧社なる事は疑う可ら不、鰯口図の如し、円経九寸七分。



白岡八幡神社

右 武州寄西郡鬼窪八幡宮 鰯口
享徳五年八月十五日 聖秀尊 紋 七葉星

神馬社 昔神馬を繫置きし廐有しかば其跡に社を建しと云。

神楽殿・鐘楼 延宝三年の鑄造の鐘なり。

別当正福院 新義真言宗、戸ヶ崎村吉祥院末、白岡山西光寺杉本坊と号す。本尊薬師は、慈覚大師の作なり。

寺伝に、当寺は嘉祥二年慈覚大師の草創にて天台宗なりしが、建久年中八幡社造立の時改宗せりと云、されど古は薬師堂と唱へしものと見えて、今も天文年中綱繁と云人より与へし寄附状を蔵せり、其文左の如し、

白岡薬師堂免老貫二百文之所領寄符候、於自今



八幡別当正福院

小久喜村

小久喜村は、白岡の南にある会野谷を挟んだ南側の地で、小名に本田・三谷耕地があり、久伊豆神社・寿楽院・地藏堂等がある、之の地域には鬼窪姓の家が多い、本家の鬼久保家には、鬼窪八幡社が祀られているので、之地が南鬼窪氏の居住跡かと思はれる。

新編武蔵風土記稿に、「旧家者文平、氏を鬼窪と称す。先祖を鬼窪尾張守と呼び、天正十九年正月八日歿し、寿楽院秋月斎居士と号す。今の文平迄十代当村に住し、名主役を奉り、彼が家より別れし家五軒在りと云、家系を伝えざれば其の家の事実、詳ならず」と記され

風土記の記され時代には、五軒の分家が在ったと記載されて居り、此の地域には、現在も鬼久保を称する旧家が存在する。



鬼窪八幡社

南鬼窪氏 (後期野興党)

後期野興党に属する、南鬼窪氏の拠点は、小久喜の久伊豆神社から寿楽院付近と思はれる。

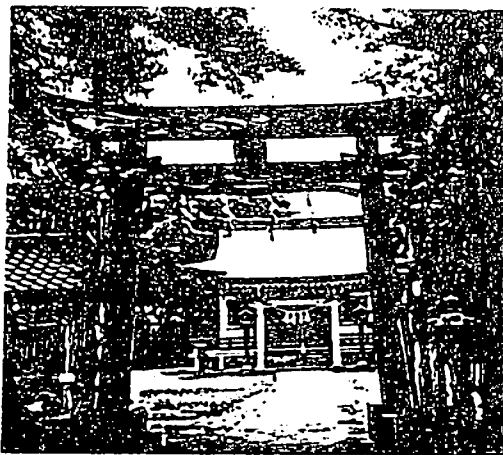
南鬼窪氏の、居館跡付近と思はれる地点、小久喜字本田(旧本村)には、鬼久保姓を名乗る旧家が在り、鬼窪八幡宮が祀られ、又、付近を旧鎌倉街道が通じている。

野興党の中では、南鬼窪氏は代表的一族で其の活躍も目覚しいものがあり、子孫に良く引継がれている。

南鬼窪氏の事蹟

元暦二年(一一八五)三月十四日、丁酉雨、鬼窪小四郎行親、使節として鎮西に下向す。

御書、参州に遣はさる、「是れ追討に遠慮を廻らすべき事、賢所並に宝物等無為に返入れ奉る可き



小久喜久伊豆神社



鬼久保家屋敷

小久喜村

小久喜村は、箕勾郷私市庄と唱ふ、当村元は、小久喜と記せしが一旦荒廃し、寛永年中再起して村落をなせし時今の如く改しと云。
此余、村の南に持添新田あり、御料所にて享保十七年糾せり。

小名 本田・三谷耕地

久伊豆神社 村の鎮守なり。○稻荷社・諏訪社村持

寿楽院 禅宗曹洞派、白岡村興善寺末、大高山と号す、本尊釈迦を安ず。

地藏堂 興善寺持、

旧家者文平、氏を鬼窪と称す。先祖を鬼窪尾張守と呼び、天正十九年正月八日歿し、寿光院秋月斎弧居士と号し。

今の文平迄十代当村に住し、名主役を奉り、彼が家より分れし家五軒在りと云、家系を伝へされば其の家の事実詳なれず。

されど当国七党の内野與党の譜に、鬼窪六郎定綱と云人を載す、『東鏡』に正嘉二年三月一日の条に、鬼窪又太郎と云人を載せ、又笠原村条に康暦三年の文書にも鬼窪氏見えたり。

文平は、之等の子孫なりや、此の他高麗郡新堀村聖天院に、応仁二年の鰐口に、「久伊豆神社御宝前鰐口、願主衛門五郎、武州騎西郡鬼窪郷佐那賀谷村」と有り、即今南隣村実ケ谷村之事也、又白岡八幡宮宝に享徳五年鰐口に鬼窪八幡宮と有り、文平が家古き家なる事知るべし。

小久喜地区の板碑

寿楽院 上・下欠 白岡町小久喜 三尊 蓮台

鬼久保清家 貞治七年 一三六八 二月十六日 一尊 蓮台
上・下欠 一尊 蓮台

以上

参考資料

群書類従
房総叢書
新編武蔵風土記稿
埼玉県誌
白岡町史
武蔵武士

表題	第194回 史跡めぐり 野與党諸氏の拠点 白岡町
主催	越谷市郷土研究会
日時	平成四年九月二十七日
案内人	山崎善司 理事
印刷所	越谷市弥生町 1-9 山崎企画工房 ☎ 6213733